

須賀神社

溝咲遺跡

みぞくい・1997.4.12

(財) 大阪府文化財調査研究センター

2A地区

2B地区

2C地区

※白い部分は、1995.3～
1996.2 調査分

馬場

先鉢橋

明治18年に測量された茨木市学園町周辺の地図（黒色線）と、昭和の地図（灰色線）を重ねました。調査地のほぼ中央にある鳥居のマークが溝咲神社上の宮です。鳥居の下の黒色の地点で上の宮関連遺構がみつかりました。また、調査地周辺をみると、明治時代以降、水田の区画をもとに、道路、宅地が造られてきたことがわかります。水田の区画はいつごろからあったのでしょうか？発掘調査では、鎌倉時代（13世紀）にはその原形があったことがわかりました。

溝咲神社



近代～近世の溝咋神社上の宮跡

四周围に浅い溝がめぐり、1×2間の礎石建物が中央にあります。



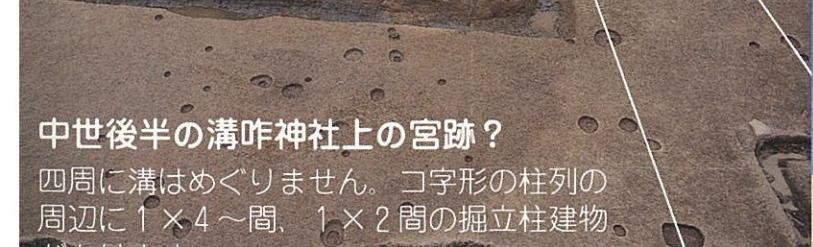
近世の溝咋神社上の宮跡

四周围に深い溝がめぐり、1×1間の掘立柱建物が中央にあります。



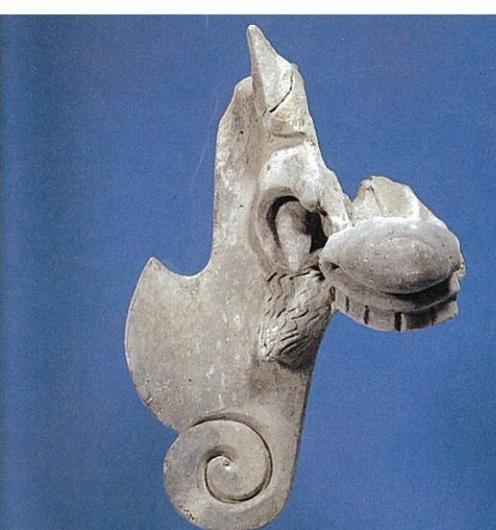
中世後半の溝咋神社上の宮跡？

四周围に溝はめぐりません。口字形の柱列の周辺に1×4～間、1×2間の掘立柱建物があります。



中世前半の溝咋神社上の宮跡？

最初の上の宮跡？とみられる遺構面です。建物ははつきりしませんが、柱穴がひろがります。



▲近世の鬼瓦



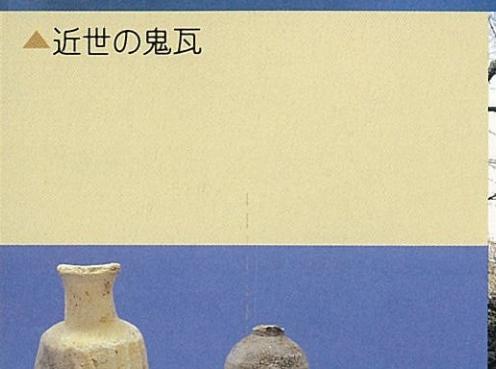
2B地区・西から



2A地区・東から



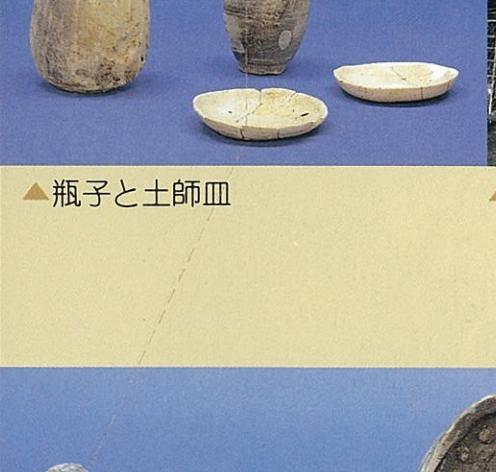
2C地区・西から



▲瓶子と土師皿



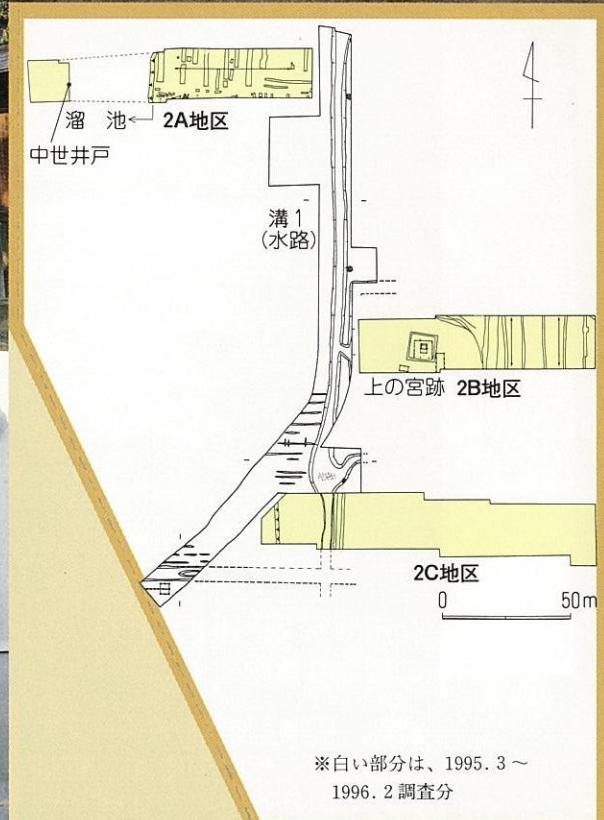
▲現在の溝咋神社



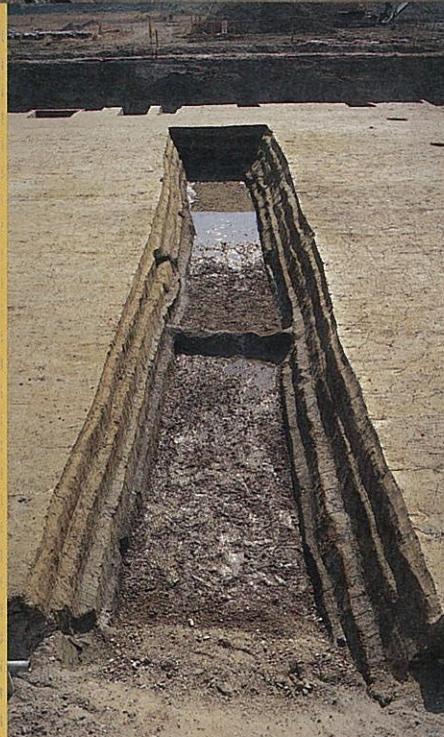
▲平安・鎌倉時代の瓦



▲溝咋神社に保管される
上の宮の額



※白い部分は、1995.3～
1996.2調査分

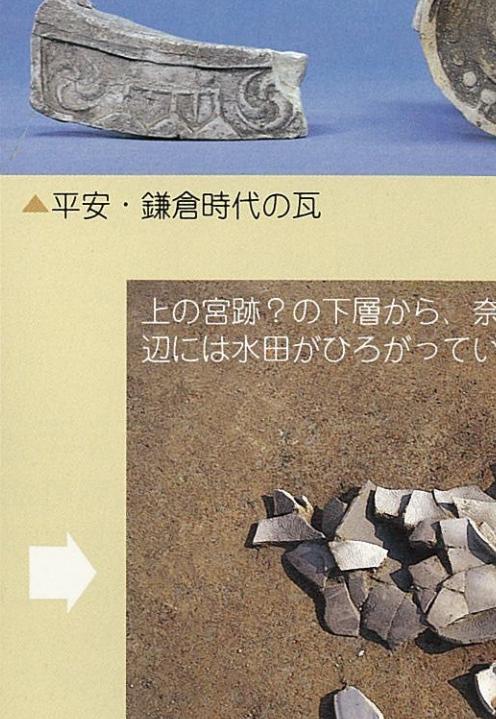


▲2A地区・長方形土坑

近代～古代（奈良時代）

▼上の宮跡？下層からまとめて出土した

奈良時代の土器



上の宮跡？の下層から、奈良時代の土器がまとめて出土しました。出土地点は溝際の微高地で、周辺には水田がひろがっています。この地点は、奈良時代から特別な場所だったかもしれません。



集落から出土した土器



▼いろいろな玉。
左下は滑石製鋤鉗車。



溝に直交する板列



河川、堀、井戸（2A-1地区）

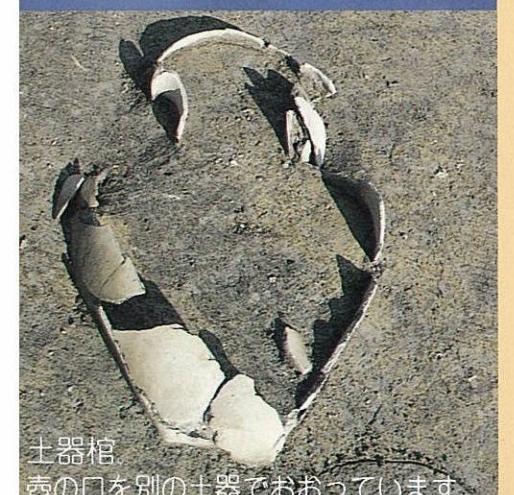


—木づくりの井戸枠（2A-1地区）

◀他
地域から
運ばれ
た土器。



3棟の住居が重なってみつかりました。



土器棺
壺の口を別の土器でおあっています。



土坑
土器出土状況。



*
土坑断面。
茶色の腐食物層に糞や昆虫がふくまれます。

銅釧。円環型銅釧がビーンズ形にゆがんだものです。断面形は、内側が丸く、外側がややとがる形です。



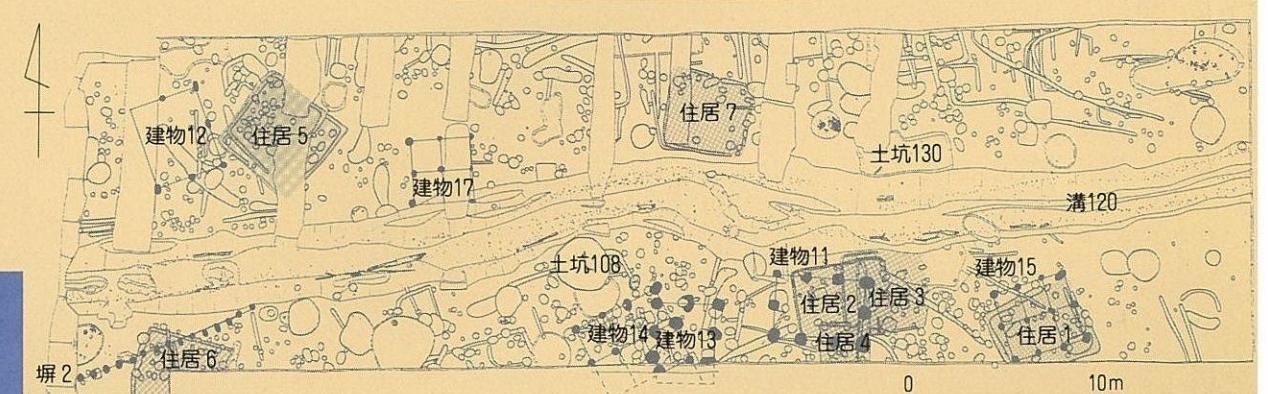
▼人面線刻土器。縦7cm、横5cmの土器片に、楕円形の目、先に円がある鼻、半円形の口が描かれ、笑ったような表情です。



▼赤壺。色顔料で描かれた土器。壺の頸から肩部の破片です。心円もしくは渦巻き文が描かれたようです。



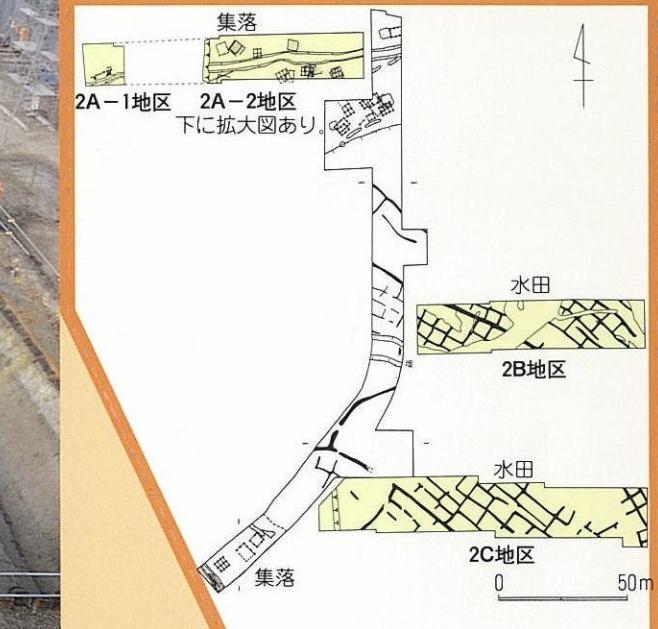
集落は、河川沿いの微高地に立地します。集落から水田へはゆるやかに下降し、比高差は約1mです。



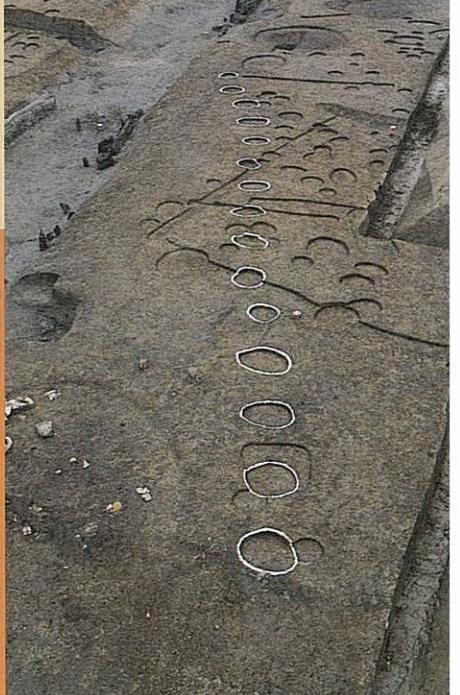
▲2A-2地区

2A地区では、古墳時代後期～弥生時代後期の集落がみつかりました。東西方向の溝の両岸に、住居8棟、掘立柱建物6棟、堀2列、土器棺2基、土坑約20基、井戸1基、多数の柱穴が重なってみつかり、人々がここに長い間、家を建て替えながら住みつづけたことがうかがえます。遺物は溝を中心に約180箱出土しています。

古墳時代後期～ 弥生時代後期の集落



※白い部分は、1995.3～
1996.2調査分



▲堀。一直線に15の柱穴がならびます。



▲人の足跡。
おとなと子どもの
足跡があります。

2B地区・西から



古墳時代後期の水田

一辺6~7mの小さな区画をもつ水田がみつかりました。水田は厚さ10~30cmの砂でおおわれており、この砂を運んだ洪水で水田は埋まったようです。集落も洪水と同じ時期に廃絶しており、人々は耕作できなくなった水田をすべて他へ移動したと考えられます。

▼下駄。はなおの穴が中央よりやや内側にあります。下駄の出土例では古い段階のものです。

▼溝出土のかめ。中には砂がつまっていました。洪水で流されたのでしょうか。

▲現在、溝堀遺跡におとずれる鳥（サギ？）の足跡。古墳時代の鳥の足跡とそっくりです。1500年前から、この地へ飛来する鳥は変わらないようです。



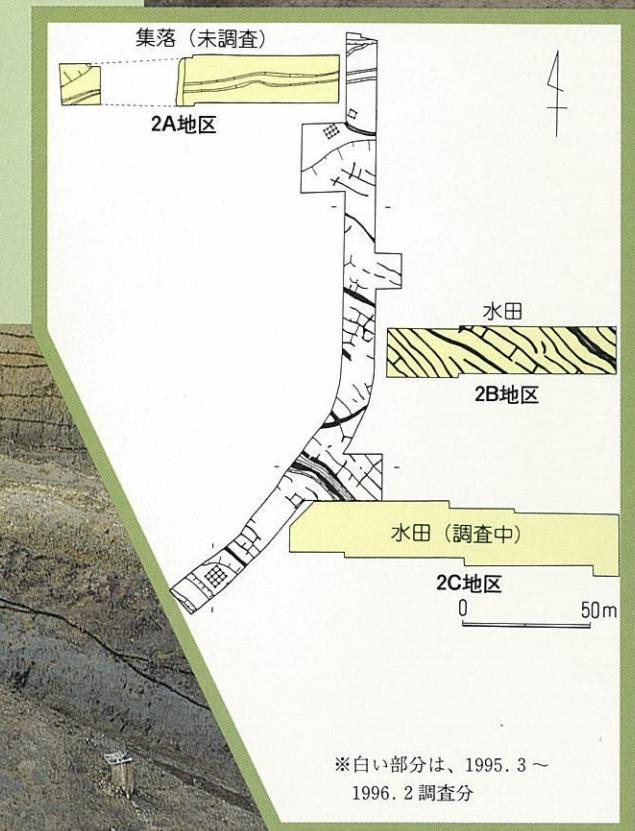
あぜの下から出土した木製品。

古墳時代後期以前の水田

水田の方形区画ははっきりしませんが、北西—南東方向のあぜが多くみつかりました。北西—南東方向が等高線にそろ主軸になるようです。



2B地区・北西から



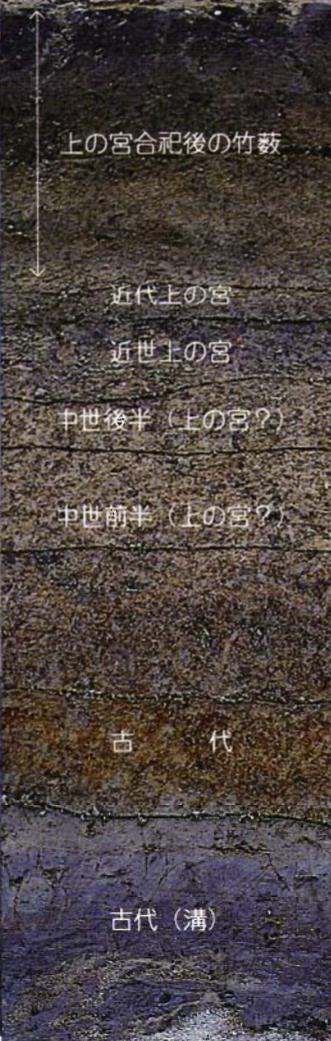
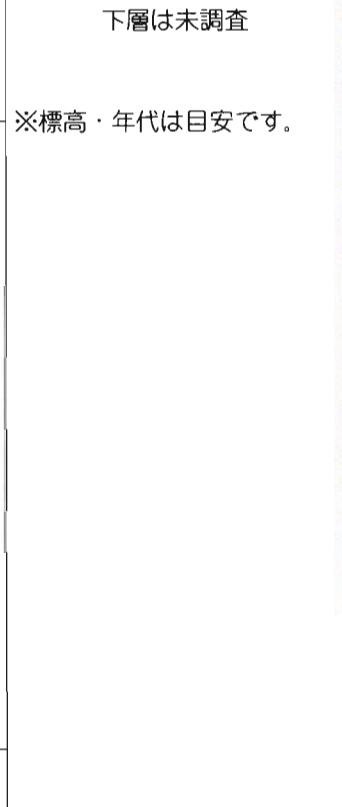
▲大きなあぜの
断面



大きなあぜ。幅約1m、高さ約50cmのあぜが平行して
しります。中央には腐食物が堆積する溝があります。



▲あぜの下から、枝・大きな板・転用材がまとめて出土しました。あぜが沈まないように補強したようです。

標高	2A地区南壁	2B地区南壁	茨木周辺の歴史	日本の歴史
7 m		 <p>浪商学園造成時の盛土 浪商学園造成時の盛土 近代耕土 中世～近世耕土 中世耕土 古代～中世耕土 古墳時代後期～弥生時代後期包含層</p>	1963 万国博覧会が開かれる（1970） 茨木町・春日村・三島村・玉櫛村が合併し、茨木市となる（1948）	
6 m		 <p>下層は未調査 ※標高・年代は目安です。</p>	1909 安威川・茨木川の堤防がきれる（1903） 淀川右岸決壊し、目垣・島・沢良宜浸水（1868） 1750 片桐貞隆・且元が茨木城主となる（1601） 1500 安威了佐が茨木城主となる（1586） 『長講堂領目六（録）』に「府分摂津国溝杭庄」の名が記される（15世紀初め） 石清水文書に「上宮」「下宮」が記される（1441） 『延喜式』に溝呉神社の他市内一二座の名が記される（927） 750 『日本書紀』に「三島溝呉玉櫛媛命」の名が記される（720）	明治維新（1868） 江戸幕府（1603） 大坂城（1583～） 安土城（1576） 室町幕府（1336） 鎌倉幕府（1192） 平安京（794） 平城京（710） 大化の改新（645）
5 m		 <p>新屋古墳群 耳原古墳 海北塚 横穴式石室をもつた古墳</p>	600 今城塚古墳	
4 m		 <p>太田茶臼山古墳 將軍山古墳 紫金山古墳</p>	500 太田茶臼山古墳 將軍山古墳 紫金山古墳	大仙古墳（仁德陵）